

持続可能な社会をつくる若手の「志」に学ぶ
第二回 “ お金 ” という価値交換ツールを再考する人 ～木村真樹さんに聴く～

日時	2006年11月10日(金) 19:00～20:45
会場	環境省 中部環境パートナーシッププラザ
講師	木村 真樹(コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事)
聞き手	岡田 敏克(ウィルプラットフォーム世話人代表)
参加者数	21名

プログラム

19:00 - 19:10	あいさつ、自己紹介
19:10 - 19:20	フリップディスカッション 「お金」と聞いて何を連想しますか？
19:20 - 19:40	プレゼンテーション 「これまでのお金の流れ」
19:40 - 19:50	質疑応答
19:50 - 20:05	フリップディスカッション 「どんな取り組みを応援したいですか？」
20:05 - 20:15	プレゼンテーション 「NPOバンクとは」
20:15 - 20:25	プレゼンテーション 「momoとは」
20:25 - 20:	プレゼンテーション 「持続可能な地域づくりへ」
20:40 - 20:45	質問、感想
20:45 - 20:50	まとめ、あいさつ



“ 志 ” 第二回は地域からお金の流

れをエコロジーに変えることや魅力的に生きて

人を増やしていきたいと願う木村さんから、価値交換ツールというお金を通して持続可能な社会像を伺いました。

プレゼンテーション 「これまでのお金の流れ(問題点)」

1. 市民がお金に関わる場面とは

お金を使う行動 お金を稼ぐ行動 お金を預ける行動 税金を納める行動

2. エコロジーなお金の流れとは

フェアトレードの商品を買う お金の稼ぎ方をエコにするエコ就職 企業の社会的責任を考えて
 ファンドを選ぶ 自分の預けたお金の使われ方を把握してエコ貯金する。

3. 貯金について

(1) 私たちの貯金のゆくえ

私たちの金融機関に預けた貯金は企業、政府に融資・投資をされている。銀行から他の銀行に貯金が回っていき実態以上の10倍や20倍となって運用される信用創造機能が働いている。

(2) お金の流れの現状

地域別に預けられたお金とその地域別に回っているお金の比較をする預貸率を見ると貸出金が預金を上回っているのは東京だけである。地域でお金が回っていない。

(3) 融資以外の運用のされ方

融資されていないお金の多くは国債が買われている。その国債は、貯金 国内銀行 国債 日本政府 米国債 米国政府 イラク戦争?に使われているかもしれない。よって、口で表現することより、お金で表現した現実が実現するかもしれない。

4. 銀行(公共性)と環境融資

環境に良いプロジェクトの融資をする。すべての融資に環境や社会を配慮した基準をもって選定をしていくのが公共性だといえるのではないかと思う。

5. トレースできないお金の流れ

これまでは見えないお金の流れを知っても預金者にとっての選択肢はなかった。NPOバンクを一つの選択肢としていきたい。

フリップディスカッション 持続可能な社会をつくるためにどのような取り組みを応援したいですか?

- ・ECOになったり、笑顔が増えることだったりして大きく見てみんながHAPPYになること。

CSRの定義は社員が笑顔で働いているかだと思う。

- ・メンタルヘルス、マイクロファイナンス、ソーシャルアントレプレナーへの融資。
- ・環境学習への体験を推進する(当たり前のことを当たり前)。
- ・海や里山を壊さない、暮らしのための活動に。
- ・貧困地域への生活保障に。
- ・大人の教育。
- ・人がやりたくない、儲からない事業に。など

プレゼンテーション 「NPOバンクとは」

1. NPOバンクでのお金の流れ

市民・企業・行政などがNPOバンクに出資(元本が保証されない) NPOバンク NPOやコミュニティビジネスなどの社会性のある事業に融資をする NPOバンク 出資者には払い戻しも可。

2. NPOバンクの特徴

(1) 審査方法

申込書類が比較的簡単である。

審査の対象として財務面に加え、社会性・公益性などの未来感を見る。

顔を見て信頼性を確認する審査方法。

審査メンバーは専門家だけではなく、主婦や市民団体も。

(2) 融資先との関わり

融資先の情報を公開してお金の使われ方を実感する。

プレゼンテーション 「momoとは」

1. 問題意識

- (1) 地域を担っていく若者の意思で決めていきたい。地域分散型で広げていきたい。
- (2) お金の地産地消の実現。豊かな未来を実感できる地域社会づくり。

2. 組織内容

融資審査委員会(理事(若手)・顧問(専門家))で全員がボランティアで運営している(momo レンジャー)

3. 融資の概要(予定)

- (1) 愛知・岐阜・三重地域対象。
- (2) 年3回の募集。
- (3) 融資限度額: 300万円。(出資額の10倍まで。)
- (4) 融資期間は原則2年間以内。
- (5) 連帯保証人を2人以上。

4. 出資の概要

- (1) 個人団体全国可能。
- (2) 出資者の想いをHPに記載する。

プレゼンテーション 「持続可能な地域づくりへ」

1. グローバル化が進むと...

(1) 環境面

規制緩和と補助金によって国際貿易が進む。グローバル化が進むことによって温暖化が促進される。

(2) 社会面

安いものが輸入される。文化に劣等感をもつ。外部のシステムに依存する。自立性が失われる。自給自足ができなくなる。貧富の差が生まれる。相互扶助の関係がなくなる。持続不可能な社会になる。

2. グローバル化からローカル化へ

(1) ローカル化

貿易量を減らす。衣食住の流出を防ぐ。地元で仕事をつくり環境を守る。

(2) momo にできること

ローカル化を応援する。融資先を見せていく。持続可能な地域をつくりたいという人を巻き込む。

このようなアイデアを組み合わせることで社会を変えられることができる。

3. サステナビリティとは

更新される資源を使って、成長よりも長い時間をかけて使う。

4. 規模ではなく機能の問題

金融は機能の問題である。メガバンクや地方銀行、信用金庫、労働金庫ができていないすきまを埋めていくのが momo の役目である。

所感

参加者の皆さんから、

- ・「お金」を扱うからこそ信頼関係を大切にするという本来の当たり前のことを当たり前に行っている姿勢

に共感しました。

- ・今後の若者の仕事の選択として考えられるようになってもらいたいです。
- ・毎日気持ちよく生きれるような社会を目指して頑張ってください！

などの率直な想いを受け取りました。持続性に向けた交換ツールの価値の重要性を強く感じた会になったと思います。ご利用は意識的に！